

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18320101

研究課題名（和文） 南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究

研究課題名（英文） The Study of Transferring Historical Records in Nara during Modern Times

研究代表者

吉川 聡 (YOSHIKAWA SATOSHI)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化遺産部・歴史研究室長

研究者番号：60321626

研究成果の概要（和文）：現在東大寺図書館に存在する中村準一寄贈文書について、調査研究をおこなった。その結果、中村家とは近世興福寺の唐院・新坊に仕えた家柄であり、その唐院・新坊に関する文書群であることが明確となった。時期は江戸時代中期～明治時代のものがほとんどである。特に明治維新時の詳細な日記が存在することが判明し、廃仏毀釈時の興福寺の動向が分かることは注目される。また、東大寺所蔵の「東大寺大勸進文書集」について検討を加え、この資料が、江戸時代後期の写本だが、近代に散逸した古写本を写したもので、鎌倉時代前期東大寺の基礎資料であることを指摘した。

研究成果の概要（英文）：Firstly, by the investigation of historical records donated the Todaiji-temple by Nakamura Junichi, the following were discovered. These records were reserved by Nakamura family, which served the departments of Kofukuji-temple during early Modern times. There is a detailed diary at the time of the Meiji Restoration. So, we can see the political trend of Kofukuji-temple at that time. Secondly, by the study of the Todaiji Daikanjin Monjoshu (documents of the chiefs of Todaiji reconstruction projects), the following were discovered. They are fundamental materials for the history of Todaiji-temple during Kamakura period, however they were manuscript copy during the last part of Edo period.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2006年度 | 4,300,000 | 1,290,000 | 5,590,000 |
| 2007年度 | 3,600,000 | 1,080,000 | 4,680,000 |
| 2008年度 | 3,600,000 | 1,080,000 | 4,680,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 11,500,000 | 3,450,000 | 14,950,000 |

研究分野：日本史・史料学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：中村準一寄贈文書・唐院新坊・東大寺大勸進文書集・行勇・東大寺図書館

1. 研究開始当初の背景

(1) 南都の古寺社における古文書調査は、奈

良文化財研究所の歴史研究室が中心となつて継続的に進められている。ただし、調査の中心は、その寺社に元来伝来してきた資料群

にあり、他から移動してきた資料群に対する調査は、後回しになりがちだった。例えば、東大寺図書館に所在する資料に関して、平成13年度～平成16年度科学研究費補助金「東大寺所蔵聖教文書の研究」(基盤(A)研究代表:綾村宏)において、新修東大寺文書聖教の調査を実施したが、量が膨大だったため、明らかに他の寺院から移動してきたと判明する資料群に関しては、基本的に調査から除外していた。

(2) しかし、明治維新時に寺社をめぐる状況は激変しており、それに伴って、資料群の所在が激しく動いていることは明白な事実である。現在我々が目にしている資料群とは、元来は、どの寺院のどの組織のもとに集積された資料群なのか。この点を解明することは、資料論を構築するために必要不可欠のはずである。だが、近代の資料整理は、内容別に分類する方法が主流だったこともあり、伝来過程が不明確になっている資料が多く存在している。

2. 研究の目的

(1) 本研究が目指す全体的な構想は、南都の古寺社が所蔵してきた歴史資料について、それぞれの資料群の伝来過程を明らかにし、資料群の性格を究明する点にある。本研究課題ではその一階梯として、近代以後に、資料群の保管場所・管理体制等がいかに変化したか、すなわちその動態を跡づける。

(2) 特にまずは、本来伝来した場所から流出した状態で、現在保管されている資料群の性格を、明らかにせんとするものである。

(3) さらに、同じ寺社内に保存されている資料群であっても、資料群を所持した組織は時代とともに変化している。特に近代の変化によって、それ以前の状況が不明確になっていることが多い。明治維新時の変化を明確にすることにより、前近代における保管状況を明確にすることを目的としている。

3. 研究の方法

(1) その研究の素材として、東大寺図書館収蔵庫第四室に所在する、新修東大寺文書聖教を選んだ。新修東大寺文書聖教は、従来のいわゆる東大寺文書を整理する過程で、その範疇に入れなかった、雑多な文書・聖教群である。しかし逆にそのために、近代の内容別の分類整理がなされておらず、比較的、元来の収蔵状況を保った函が多いと推測された。

(2) そこでまずは、新修東大寺文書聖教の中でも外部から持ち込まれたことが明らかな資料群として、中村準一寄贈文書の整理検討を実施した。それらは近代に中村準一氏が東大寺に寄贈した文書群だが、全く整理され

ていない状態で現在にまで至ったものである。まずはそれらにラベルを貼付し、その目録を作成することに重点を置いた。そして、その過程で見いだした重要資料について検討を加えることとした。

(3) また、中村準一寄贈文書以外でも、新修東大寺文書聖教の中から、重要と思われる資料について適宜検討を加えることとした。

(4) 当初計画では、中村準一寄贈文書の内容を取りまとめ、他の資料群等も調査検討する予定だったが、延長申請が認められた結果、平成21年度からは別の研究という位置づけとなったため、現在は延長後の課題として、その研究事業を継続している。

(5) その他、東大寺所蔵文書以外についても、南都の寺社関係資料や、その調査に関する近代資料等の調査研究をおこなった。

4. 研究成果

(1) まず、中村準一寄贈文書について、現時点で把握しているもののほとんど全てにラベルを貼付し、簡略な書誌事項を記録した。また一部については写真撮影を実施した。その結果、中村家とは、近世興福寺の律院である唐院・新坊の承仕をつとめた家柄であり、中村準一寄贈文書は、その関係資料群であることが判明した。その内容は、江戸時代中・後期から明治時代にかけての、興福寺の事務方が担った多様な職務全般に及ぶものである。その詳細は延長後の研究課題として現在も検討を加えているところである。

その中村準一寄贈文書の中でも、特に注目されたのが、江戸時代後期から明治初年にかけての日記がほぼ連続して残っていたことである。特に、慶応四年(明治元年)の詳細な日記が存在しており、興福寺が一時期廃寺となる時期の、当事者が書き留めた記録として注目すべきものである。そこで慶応四年の日記に関しては、翻刻作業を実施した。これも、延長された平成21年度以降も引き続いて翻刻作業中である。

(2) また、中村準一寄贈文書以外の新修東大寺文書聖教については、特に第2函1括1号の東大寺大勸進文書集に関する検討を行った。その結果、この資料は内容的には、鎌倉時代前・中期の東大寺大勸進、特に第三代大勸進である行勇に関する基礎資料であることが明らかとなった。そして伝来の面では、この資料は江戸時代後期の写本だが、鎌倉時代の文永年間に書写された写本を写したものであること、そしてもともとなった古写本は、近代にほとんど失われてしまったこと、それゆえ当該資料が、全貌を知ることができる唯一の写本であることが明らかとなった。

この東大寺大勸進文書集は、鎌倉時代前期～中期の東大寺大勸進関係資料を、80通近

くも収録しており、当該時期の東大寺、ひいては日本史を考える上で重要な資料である。またその成立過程も判明し、建仁寺に存在した関係文書を、文永八年(1271)に、大勧進の円照が作成したものであると想定できた。それまで東大寺大勧進職は、建仁寺など、他の寺院の僧が任じられることが多かった。そのような場合には、関係文書は大勧進個人の元に存在するので東大寺には存在しなかったことが分かる。そして東大寺内からはじめて大勧進に就任した円照の段階で、文書をできるだけ収集した様子をうかがい知ることができる。

中世に文書が集積され、それが編集・書写され、伝来され、近代に転変していく過程を、かなりの程度明らかにできた例と思われる。その成果は、吉川聡・遠藤基郎・小原嘉記の連名で、「東大寺大勧進文書集」の研究」として、『南都仏教』誌上に掲載した(下欄参照)。

(3) その他、南都の他の古寺社に関する資料についても、原本調査から興味深い知見を得ることができた。

例えば、現在氷室神社の神主をつとめる大宮家は、鎌倉時代前期から明治維新に至るまで、春日社神人として、常住神殿守を世襲した家柄である。その関係文書が大宮家に伝来するが、奈良市教育委員会主催の調査に吉川・綾村も参加し、原本調査をおこなった。その結果、江戸時代後期から明治時代にかけての大宮家文書整理過程において、文書にかなり手を加えていることが明確になりつつある。そのような点を注意深く読み解いた結果の一つの成果として、南北朝時代に成立して代々書き継がれた大宮家の古系図の当初の姿を、ほぼ復原することができた(「大宮家文書の原本調査から」<下欄参照>)。

また、明治時代の建築学者で、奈良の文化財研究に多くの業績を残した関野貞について、奈良文化財研究所所蔵の日記を翻刻し、注・解説をつけて、『関野貞日記』(下欄参照)の一部として出版した。廃仏毀釈によって荒廃した奈良の文化財が、学問的に脚光を浴びていく過程を知る上での基礎資料である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

吉川聡、遠藤基郎、小原嘉記、「東大寺大勧進文書集」の研究、南都仏教、査読有、91巻、2008、pp.123-220

吉川聡、文書の挟み板、奈良文化財研究所紀要、査読無、2008、2008、pp.44-45

吉川聡・桑原文子、大宮家文書の原本調査から、奈良文化財研究所紀要、査読無、

2007、2007、pp.26-29

吉川聡、法華寺の鳥居、シリーズ歩く大和 古代中世史の探究、査読無、2007、pp.215-246

吉川聡、信円の花押 興福寺所蔵「有法差別本作法義」をめぐって、奈良文化財研究所紀要、査読無、2006、2006、pp.46-47

〔学会発表〕(計2件)

吉川聡、東大寺大勧進文書集、奈良文化財研究所第19回総合研究会、2009年1月28日、奈良文化財研究所

〔図書〕(計3件)

吉川聡、奈良文化財研究所、興福寺典籍文書目録第四巻、2009、330

藤井恵介・吉川聡・他、中央公論美術出版、関野貞日記、2009、844

吉川聡・他、奈良文化財研究所、黒草紙・新黒双紙

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉川 聡 (YOSHIKAWA SATOSHI)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化遺産部・歴史研究室長
研究者番号：60321626

(2) 研究分担者

渡辺 晃宏 (WATANABE AKIHIRO)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・史料研究室長
研究者番号：30212319

富田 正弘 (TOMITA MASAHIRO)

元 富山大学・人文学部・教授

研究者番号：50227625

(H19→H20：研究協力者)

永村 眞 (NAGAMURA MAKOTO)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：40107470

(H19 H20：連携研究者)

綾村 宏 (AYAMURA HIROSHI)

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：20000507

(H19 H20：連携研究者)

遠藤 基郎 (ENDO MOTOO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

(H19 H20：連携研究者)

馬場 基 (BABA HAJIME)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・研究員

研究者番号：70332195

(H19 H20：連携研究者)

市 大樹 (ICHI HIROKI)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員
研究者番号：00343004
(H19 H20：連携研究者)
山本 崇 (YAMAMOTO TAKASHI)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員
研究者番号：00359449
(H19 H20：連携研究者)
光谷 拓実 (MITUTANI TAKUMI)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター・客員研究員
研究者番号：90099961
(H19 H20：連携研究者)
窪寺 茂 (KUBODERA SHIGERU)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化遺産部・建造物研究室長
研究者番号：00393372
(H19 H20：連携研究者)

(3)連携研究者

()

研究者番号：

研究協力者

池田 寿
文化庁・文化財部美術学芸課・主任文化財調査官
横内 裕人
文化庁・文化財部美術学芸課・文化財調査官
梅澤 亜希子
文化庁・文化財部美術学芸課・文部科学技官
浅野 啓介
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・研究員
古藤 真平
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・特別研究員
坂東 俊彦
東大寺史研究所・研究員
佃 幹雄
元 奈良国立文化財研究所・専門員
坂本 亮太
(財)元興寺文化財研究所・人文考古学研究室・研究員
海原 靖子
(財)白鶴美術館・学芸員
鍛冶 宏介
京都大学文学部・日本史学専修・特定助教
藤本 仁文
(財)郡山城史跡・柳沢文庫保存会・学芸員

黒岩 康博
京都大学人文科学研究所・人文学研究部・助教
中町 美香子
東京大学史料編纂所・助教
島津 良子
奈良女子大学・非常勤講師
佐竹 朋子
京都市歴史資料館・京都市市政史編さん委員会編さん助手
小原嘉記
日本学術振興会・特別研究員
徳永 誓子
総合研究大学院大学・文化科学科・国際日本研究専攻・博士後期課程
石田 俊
京都大学大学院文学研究科・日本史学専修・博士後期課程
竹貫 友佳子
京都府立大学大学院文学研究科・史学専攻・博士後期課程
渡辺 洋子
前 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・派遣職員
前久保 宏江
前 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・派遣職員
水谷 友紀
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・派遣職員
山田 徹
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・派遣職員
萩原 大輔
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・派遣職員
幸崎 千夏
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・派遣職員